

高等学校 令和6年度（3学年用）教科 地理歴史 科目 世界史探究

教科： 地理歴史 科目： 世界史探究 単位数： 4 単位
対象学年組：第 3 学年 1 組～ 8 組
教科担当者：（ 田本 ）
使用教科書：（ 山川出版社『世界史探究 詳説世界史』 ）
教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目	世界史探究	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1章	文明の成立と古代文明の特質 2 古代オリエント文明とその周辺 ①オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ②都市国家に富や権力が集まった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。 ④エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。 ⑥アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。	《指導項目》 ・メソポタミア文明 ・エジプト文明 ・東地中海世界の諸民族 ・古代オリエントの統一 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T機器、一人1 台端末の活用	《知識・技能》 オリエントの大半が乾燥地帯であること、そのなかで大河流域のメソポタミアとエジプトで灌溉農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。 《思考・判断・表現》 ハンムラビ法典や『旧約聖書』などの資料をもとに、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 オリエント文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている	○	○	○	4
第4章	西アジアと地中海周辺の国家形成 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 ①アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。 ②パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。 ③パルティアとササン朝が東西の文明の間で担った役割を多面的・多角的に考察し表現する。	《指導項目》 ・アケメネス朝 ・パルティア ・ササン朝 ・イラン文明 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T機器、一人1 台端末の活用	《知識・技能》 アケメネス朝、パルティア、ササン朝といったイラン諸国家がそれぞれどのように興亡したのかを理解している。 《思考・判断・表現》 ササン朝と法隆寺の『獅子狩』図案などの資料をもとに、イラン文明が世界の諸地域に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 イラン文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている	○	○	○	2
第4章	西アジアと地中海周辺の国家形成 2 ギリシア人の都市国家 ①クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。 ②ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。 ③スパルタが軍国主義をしいた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ④民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ⑤ギリシアの諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑦ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	《指導項目》 ・クレタ文明とミケーネ文明 ・ポリスの成立と発展 ・アテネとスパルタ ・アテネ民主政への歩み ・ペルシア戦争とポリスの変容 ・ヘレニズム時代 ・ギリシア文化とヘレニズム文化 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T機器、一人1 台端末の活用	《知識・技能》 アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 《思考・判断・表現》 オストランなどの考古学的資料や「ペリクレスの演説」などの資料をもとに、ギリシアの人の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 古代ギリシアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている	○	○	○	5
定期考査 定期考査の振り返り							2
第4章	西アジアと地中海周辺の国家形成 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展 ①ローマ共和政の特徴について、ギリシア民主政と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ②地中海における領土拡大がローマ共和政に与えた影響を理解する。 ③ローマの内乱の発生から終息までの経緯を理解する。 ④「ローマの平和」が地中海世界に与えた影響を理解する。 ⑤ローマ帝国が危機を迎えた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ローマ帝国の文化的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑦キリスト教の成立の経緯を理解している。 ⑧ローマ帝国によるキリスト教への対応を多面的・多角的に考察し表現する。	《指導項目》 ・共和政ローマ ・内乱の1世紀 ・ローマ帝国 ・3世紀の危機とローマ帝国の滅亡 ・ローマ文化 ・キリスト教の成立と発展 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T機器、一人1 台端末の活用	《知識・技能》 ローマがどのような経緯で都市国家から帝国にいたったのか、またローマ人の文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 勢力を拡大させていたキリスト教をローマ帝国がどのように利用しようとしたのかを理解している。 《思考・判断・表現》 モザイク画などの図像資料や「神皇アウグストゥス業績録」などの資料をもとに、ローマが地中海世界を統一し、それを維持できた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 当時の地中海世界の状況をふまえたうえで、キリスト教が急速に広がった理由を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 古代ローマについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 キリスト教の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている	○	○	○	7

1 学 期	<p>第1章 文明の成立と古代文明の特質 3 南アジアの古代文明</p> <p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開</p> <p>1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着</p> <p>①南アジアの多様性を生み出した地理的環境について理解する。 ②南アジア最古の文明であるインダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。 ③アーリヤ人の進入が南アジアにもたらした変化について多面的・多角的に考察し表現する。 ④仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。 ⑤南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとの仏教の発展について理解する。 ⑥クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑦「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑧グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。 ⑨8～10世紀の諸勢力が割拠した時代における各地の政権の政策を理解する。 ⑩ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>《指導項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インダス文明 ・マウリヤ朝 ・クシャーナ朝 ・グプタ朝 ・ヴァルダナ朝 ・インド古典文化 <p>《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用</p>	<p>《知識・技能》</p> <p>南アジアが南北に大きく二分されること、それぞれの風土に適合した生活が古くから営まれていたことを理解している。 南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。 インド古典文化の黄金期とされるグプタ朝において、文化がどのように展開したのかを理解している。 《思考・判断・表現》 ヴァルナ制やジャーティ集団の成立をもとに、アーリヤ人社会に富や地位の差が生まれていった背景や原因を考察し表現している。 インド洋航海図（地図）や『エリュトゥラー海案内記』などの資料をもとに、インド洋交易の広がりを多面的・多角的に考察し表現している。 それまで仏教やジャイナ教が盛んだったことをふまえたうえで、ヒンドゥー教が社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 南アジアの古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 南アジアで生まれた諸宗教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 インド古典文化とヒンドゥー教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	5
	<p>第1章 文明の成立と古代文明の特質 4 中国の古代文明</p> <p>①殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ②春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。 ③戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>《指導項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国文明 ・殷・周 ・春秋戦国時代 <p>《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用</p>	<p>《知識・技能》</p> <p>東アジア各地の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。 《思考・判断・表現》 青銅器や獣骨など考古学的資料や『春秋左氏伝』などの資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 中国の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
	<p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 2 秦・漢帝国</p> <p>①新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。 ②漢の支配体制の変遷を理解する。 ③統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>《指導項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秦の統 ・漢代の政治 ・漢代の社会と文化 <p>《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用</p>	<p>《知識・技能》</p> <p>秦・漢といった統一国家の支配体制について、それまでの春秋・戦国時代と比較したうえで理解している。 《思考・判断・表現》 兵马俑や青銅貨幣など考古学的資料や『塩鉄論』禁耕などの資料をもとに、秦・漢の時代に生じた地域間の結びつきの変化や、統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 秦・漢帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	7
	<p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 3 中国の動乱と変容</p> <p>①遊牧民族の動きと魏晉南北朝の動乱との関係について理解する。 ②魏晉南北朝時代に仏教や道教が力を持つようになった要因や背景を、多面的・多角的に考察し表現する。 ③魏晉南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮や日本に与えた影響について理解する。</p>	<p>《指導項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北方民族の動向 ・魏晉南北朝 ・社会経済の変化 ・魏晉南北朝時代の文化 ・朝鮮と日本の動向 <p>《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用</p>	<p>《知識・技能》</p> <p>魏晉南北朝の動乱がどのように展開したのかについて、遊牧民族との関わりもふまえたうえで理解している。 《思考・判断・表現》 「女史箴図」などの図像資料や『顔氏家訓』などの資料をもとに、魏晉南北朝時代の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 魏晉南北朝の動乱について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	5
	<p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 4 東アジア文化圏の形成</p> <p>①唐の勢力圏の広がりを理解する。 ②唐代初期の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。 ④安史の乱前後の唐の制度や社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤突厥・ウイグルと唐・唐の関係を理解する。</p>	<p>《指導項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隋の統一と唐の隆盛 ・唐代の制度と文化 ・唐と近隣諸国 ・唐の滅亡 ・五代十国時代 <p>《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用</p>	<p>《知識・技能》</p> <p>隋・唐の社会や制度、支配体制について、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。 《思考・判断・表現》 壁画などの図像資料や『旧唐書』奥服志などの資料をもとに、隋・唐の社会の特徴や近隣諸国への影響を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 東アジア文化圏の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	7
	<p>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 1 アジア諸地域の自立化と宋</p> <p>①10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 ②宋の対外関係の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③宋における社会や経済の発展の様子を理解する。 ④宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>《指導項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの勢力交替 ・宋と金 ・早大の社会と経済 ・宋代の文化 <p>《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用</p>	<p>《知識・技能》</p> <p>10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。 《思考・判断・表現》 「清明上河図」などの図像資料や荘椿『鶏肋編』などの資料をもとに、宋代の経済発展が社会に引き起こした変化を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 10～12世紀の東アジアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	5
	<p>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 2 モンゴルの大帝国</p> <p>①モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②モンゴル帝国による支配が東アジアにおよぼした影響について理解する。 ③モンゴル帝国時代の東西交流の新しさを多面的・多角的に考察し表現する。 ④モンゴル帝国解体の要因を理解する。</p>	<p>《指導項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル帝国の形成 ・元の東アジア支配 ・モンゴル帝国時代の東西交流 ・元の滅亡 <p>《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用</p>	<p>《知識・技能》</p> <p>モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。 《思考・判断・表現》 モンゴル帝国の最大領域を示す地図や「混一疆理歴代国都之図」などの図像資料をもとに、モンゴル帝国の成立世界的な意義を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	5

2 学 期	第9章 大交易・大交流の時代 1 アジア交易世界の興隆 ①明朝初期の国内統治の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ②明との朝貢関係が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③世界的な商業の発展が明の朝貢体制におよぼした影響を理解する。 ④明代後期の中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 第9章 大交易・大交流の時代	《指導項目》 ・明の政治 ・明の朝貢体制 ・明代の社会と文化 ・明の滅亡 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T 機器、 一人1 台端末の活用	《知識・技能》 「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。 《思考・判断・表現》 「南蛮屏風」などの図像資料や鄭曉『今言』などの資料をもとに、この時期のアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	定期考査 定期考査の振り返り						2
	第10章 アジアの諸帝国の繁栄 3 清代の中国と隣接諸地域 ①清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 ②清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ③漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。	《指導項目》 ・清の政治 ・清と周辺諸国 ・清代の社会と文化 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T 機器、 一人1 台端末の活用	《知識・技能》 清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。 《思考・判断・表現》 皇帝を描いた図像資料や『康熙帝伝』などの資料をもとに、清代の皇帝と従来の中国王朝の皇帝との違いを多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 清代の中国と隣接諸地域について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 1 第2次産業革命と帝国主義 ①帝国主義の支配を受けた地域における社会や文化の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ②各列強が抱えていた国内事情とその課題を理解する。 ③この時期に国際労働運動が再燃した背景とその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	《指導項目》 ・帝国主義 ・帝国主義時代の欧米列強の政治と社会 ・国際労働運動の発展 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T 機器、 一人1 台端末の活用	《知識・技能》 第2次産業革命が社会に与えた影響や帝国主義時代の欧米列強の国内情勢および植民地拡大の経緯を理解している。 《思考・判断・表現》 国際情勢を風刺した図像資料や「白人の責務」などの資料をもとに、欧米列強が植民地や勢力圏の拡大を争った背景を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 第2次産業革命と帝国主義について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 ①列強の植民地化によるアフリカの社会や文化の変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ②列強による太平洋地域の植民地化の経緯を理解する。 ③独立後のブラジル・アルゼンチン・メキシコがたどった道を比較し、共通点と相違点を理解する。 ④20世紀初頭における列強体制の枠組みの変化を多面的・多角的に考察し表現する。	《指導項目》 ・アフリカの植民地化 ・太平洋地域の分割 ・ラテンアメリカ諸国の独立 ・列強体制の二分化 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T 機器、 一人1 台端末の活用	《知識・技能》 列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。 《思考・判断・表現》 列強の植民地・勢力圏を示した地図や帝国主義を風刺した図像資料をもとに、列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 列強の世界分割について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 3 アジア諸国の変革と民族運動 ①日清戦争と日露戦争が中国および東アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②改革をおこなったにもかかわらず清朝が倒れた原因を理解する。 ③インドにおける民族運動の社会的背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ④東南アジア各地の民族運動に共通する傾向を理解する。 ⑤西アジア各地における民族運動の共通点を理解する。	《指導項目》 ・列強の中国進出 ・日露戦争と韓国併合 ・辛亥革命 ・インド・東南アジア・西アジアの民族運動 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T 機器、 一人1 台端末の活用	《知識・技能》 アジア各地における改革や民族運動がどのように展開し、いかなる結果をもたらしたのかを理解している。 《思考・判断・表現》 アジア各地の情勢や梁啓超「中国積弱の根源について」などの資料をもとに、アジア各地の変革や民族運動の背景を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 アジア諸国の変革と民族運動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	定期考査 定期考査の振り返り						2
	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 1 第一次世界大戦とロシア革命 ①バルカン半島で緊張が高まった背景を理解する。 ②歴史上はじめての世界大戦が勃発した原因を多面的・多角的に考察し表現する。 ③戦時外交および総力戦の特徴を理解する。 ④第一次世界大戦がもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ロシア革命の経緯を理解し、その歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。	《指導項目》 ・バルカン情勢 ・第一次世界大戦の勃発 ・戦時外交と総力戦 ・第一次世界大戦の終結 ・ロシア革命 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T 機器、 一人1 台端末の活用	《知識・技能》 第一次世界大戦とロシア革命がどのように展開したのかを、戦時外交や総力戦の特徴、大戦のもたらした結果などとあわせて理解している。 《思考・判断・表現》 塹壕戦やさまざまな新兵器、軍需工場で働く女性の図などの第一次世界大戦に関する図像資料および「平和に関する布告」などの資料をもとに、第一次世界大戦とロシア革命が世界にもたらした変容を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 第一次世界大戦とロシア革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	7
	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ①第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。 ②西欧諸国における第一次世界大戦後の展開を多面的・多角的に考察し表現する。 ③国際協調をめぐる1920年代の前半と後半の変化を理解する。 ④イタリアにおけるファシズム体制成立の背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤東欧・バルカン半島の新興国が直面した困難と、それに対応すべく築かれた体制を理解する。 ⑥1920年代のソ連とアメリカのそれぞれの国内情勢を理解する。	《指導項目》 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・1920年代の欧米諸国 ・国際協調と軍縮の動き ・ソ連の成立 ・ファシズムの台頭 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、I C T 機器、 一人1 台端末の活用	《知識・技能》 第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解している。 《思考・判断・表現》 各国の国内情勢を写した図像資料や「十四カ条」などの資料をもとに、1920年代の欧米各国における変容を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	7

3 学 期	第16章 第一次世界大戦と世界の姿容 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 ①第一次世界大戦が東アジアの政治・経済・文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②日本の勢力拡大に対する中国・朝鮮の人々の対応を多面的・多角的に考察し表現する。 ③南京国民政府による中国統一達成までの経緯を理解する。 ④第一次世界大戦後のインド・東南アジア・アフリカにおける民族運動の経緯を理解する。 ⑤第一次世界大戦による西アジアの政治地図の変化を理解する。	《指導項目》 ・第一次世界大戦後のアジアの民族運動 ・中国国民党と中国共産党 ・アフリカ位の民族運動 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用	《知識・技能》 第一次世界大戦がアジア・アフリカの各地に与えた影響を理解する。 《思考・判断・表現》 民族運動の様子を写した図像資料や胡適「文学革命についての書簡」などの資料をもとに、アジア・アフリカ各地の民族運動の特徴や共通性を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 アジア・アフリカ地域の民族運動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 ①世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ニューディール政策およびブロック経済の特徴や世界経済への影響を理解する。 ③ナチス＝ドイツの体制が成立する経緯とその政策内容を理解する。 ④ソ連の計画経済が資本主義諸国に与えた影響を理解する。 ⑤日本と中国が全面戦争へいたった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ファシズム諸国の攻勢が国際政治に与えた影響を理解する。	《指導項目》 ・世界恐慌 ・ニューディール政策とブロック経済 ・ナチス＝ドイツ ・ソ連の計画経済とスターリン体制 ・満州事変と日中戦争 ・ファシズム諸国の攻勢 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用	《知識・技能》 世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応策、およびヴェルサイユ体制の崩壊にいたる経緯やファシズム諸国・日本の動きについて理解する。 《思考・判断・表現》 政治的なポスターなどの図像資料や経済的な変化を示す統計資料をもとに世界恐慌下の各国における変容を、またナチスの全国党大会の図像資料や⑥介石「盧溝橋事件に関する廬山談話」の文字資料などをもとにファシズム諸国や日本の動きについて、多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	7
	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 2 第二次世界大戦 ①開戦直前における各国のナチス＝ドイツへの対応を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ヨーロッパにおける第二次世界大戦の展開を理解する。 ③独ソ戦および太平洋戦争の開戦が第二次世界大戦にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④第二次世界大戦の終戦までの経緯を理解する。 ⑤第一次世界大戦と比較したうえで、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	《指導項目》 ・第二次世界大戦の勃発 ・独ソ戦 ・太平洋戦争 ・大戦の終結 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用	《知識・技能》 第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解する。 《思考・判断・表現》 戦場を写した図像資料や「大西洋憲章」などの資料をもとに、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 《主体的に学習に取り組む態度》 第二次世界大戦について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	定期考査 定期考査の振り返り						2
3 学 期	人試対策 問題集や赤本を使い、大学入試に向けて問題演習を行う。	《指導項目》 世界全範囲 《使用教材》 教科書、地図帳、ワークシート、ICT機器、一人1台端末の活用	《知識・技能》 大学入試に向けて、問題を解くための知識や技能を獲得する。 《思考・判断・表現》 大学入試に向けて、問題で扱われている資料の特徴を多面的・多角的に考察している。 《主体的に学習に取り組む態度》 大学入試に向けて、見通しを持って主体的に学習に取り組もうとしている。				22
							合計 14